

■シリーズ■

中学校武道

授業の充実に向けて

211

「今」の時代の武道授業を追い求めて

40

（主体性と武道の美徳を育む剣道授業）

福岡市立和白丘中学校 教諭 豊村雪華

教職に就いて今年で3年目になります。教材研究や研修、先輩方からの助言、そして生徒との関わりのなかで、学び、実践し、反省する、このサイクルを繰り返す日々です。

未熟者ではありますが、今回、本校の武道授業を紹介する機会をいただきましたので、ありのまま、私の剣道の授業実践を紹介します。どなたかのこれからの授業実践において、少しでもお役に立てれば幸いです。

1 私のこれまでの 剣道との関わり

私は小学5年生のときに偶然目にした道場のチラシがきっかけで剣道をはじめ、気づけば15年が経過しました。学生時代にさまざまな先生方からいただいた「人としてどうあるべきか」の教えは、今の私の支えとなっています。また、武道が中学1年生・2年生で必修となった頃、ちょうど私は中学生でした。新聞切りやボール打ち、そして、実際に剣道部員が剣

道具を着けて、他の生徒が打突を経験するという授業内容だったのを覚えています。高校では女子は武道ではなく、ダンスを選択するカリキュラムになっていましたので履修はしていません。大学時代には、リズム剣道や簡易竹刀を使った授業、アダプテーションゲーム、剣道具装着の工夫など、今の時代に合わせた剣道授業の実践について学びました。そして、教職に就いてからは教材研究に加え、「全国剣道指導者研修会」にも参加させていただき、勉強しているところです。

このような経験に基づき、いた

	配 時	学習活動・内容	手だて	評価基準
一	1	1 オリエンテーションを行い、学習のならいや計画を理解させる。 ・剣道の特性や成り立ち ・授業の進め方 ・左座右起	○授業の流れがつかめるように、スライドを準備する。	思：積極的に活動に参加しようとしている。
二	1	2 基本的な動きを身に付ける。 (1) 送り足と正面素振りの稽古を行う。 ・送り足 ・座礼 ・中段の構え ・正面素振り ・有効打突の条件	○基本動作や基本となる技を視覚的に身に付けさせるために、模範しながら説明する。	思：相手の改善点を伝えることができる。
三	3	3 グループで基本技稽古法の稽古を行う。 (1) 行い方を知る。 ・面 ・小手 ・胴 (2) 一連の流れをつかみ、グループで稽古を行う。 ・グループ学習 (3) 気・剣・体の観点に基づいて情報通信技術（ICT）を活用して分析活動を行う。	○理解の定着を図るために、小手と胴のジグソー学習を設定する。 ○自他の課題に気付かせるために、チェックシートを使わせて確認させる。 ○分析をしやすくさせるために視点や行い方を示す。	知：相手に小手、胴それぞれの打突の仕方を説明することができる。 思：自他の課題を見つけ、改善策を伝えることができる。 技：「気・剣・体の一致＋残心＋礼法」すべてが揃った形ができる。
四	2	4 形の審査会を行い、まとめをする。 (1) 審査会を行う。 ・審査会 (2) 学習のまとめをする。 ・振り返り	○勝敗をつけただけで終わらせないために、審判は形をした人にアドバイスをさせる。 ○授業の内容を振り返らせるために、授業内容をスライドにまとめ、提示する。	知：審判の行い方を説明することができる。 思：自分の成長や仲間の良さに気づき、認めようとしている。

単元計画

だいた教えを次の世代に伝承するために、体育授業のなかで「剣道」を行っています。

2

実践
これまでの授業

今まで2年間剣道の授業を実践してきました。1年目は1年生を担当し、2年目は1年生と2年生を担当しました。一回の授業で70名前後を対象として、剣道場1面と柔道場1面がつながっている大きな武道場で行っています。今回は1年生に行った授業実践を紹介します。

単元は7時間で構成しています。場所とモノの関係から剣道具の装着は行いません。木刀による剣道基本技稽古法の一本目（「突き」以外）を教材として扱います。単元の最終的な目標は「気・剣・体の一致＋残心＋礼法」を生徒が理解し、それを仲間説明したり、実践したりすることができるようになることです。

授業において「気」では主に発

剣道の精神

「礼に始まり礼に終わる」

- ①武道場に入るとき、出るとき、立ち止まって一礼
- ②授業前、授業後、正座→黙想→礼

オリエンテーション PowerPoint より

気・・・武道場に響き渡る声

- 剣・・・●竹刀を正しく握る
- 頭の上まで真っすぐ竹刀を振り上げる
- 刃筋正しく
- 体・・・姿勢正しく(左足のひきつけ)

- 残心・・・次への備え、表情
- 礼法・・・所作(歩数や竹刀の操作など)

ポイントシート

声を取り上げます。コロナ禍を経験した今の中学生は大きな声を出すことにためらいを感じる子も少なくありません。そのため、まずは教員が腹から声を出す模範を行います。それだけで雰囲気が変わります。また、お互いに向かい合って大声対決もします。このように大きな声を出しやすい雰囲気づくりを心掛けています。

「剣」では体軸を通る、真つすぐな竹刀の振りに焦点をあてます。まずは構えや正しい素振りについて一斉指導で伝え、そのあとはペアでの教え合いの活動を行います。

「体」では左足のひきつけを重視します。送り足は日常生活で行う歩み足とは異なるため生徒は馴染みのない動きですので、毎時間のウォーミングアップに送り足ゲームを取り入れ、親しみやすいものにします。

「残心」では基本技稽古法の打突後の一歩後退の際の視線や表情に焦点をあてます。「一本をとって

ガッツポーズをすると取り消しになる」という剣道人では当たり前のことが、生徒たちにはとても新鮮なものだということに授業をしていて気がつきました。そのため、形の稽古前には「集中しよう」と声掛けをして、形に集中できる雰囲気づくりを心掛けていきます。

「礼法」は形の前後の礼法だけではなく、毎時間授業前後に正座をして黙想、礼を行います。一つ一つのどのような意味があるのか伝えることで、とても引き締まった雰囲気になります。また、本校では「3分前入室・2分前着席・1分前黙想」という学習の取り組みをしていますので、黙想の意義を伝えることによって日常の学校生活にも生かせるようにしています。

3 授業で心掛けて いること

授業を行う中で最も心掛けているのは生徒の主体性をいかに引き出すかということです。武道はほ

とんどの生徒にとって馴染みがなく、授業前のアンケートでも半数近くがネガティブな考えを持っていました。だからこそ、主体性を意識するようにしています。次に具体的な工夫を三つ紹介します。

一つ目はジグソー学習です。まず、一斉指導で「面打ち」を教えます。そのあと、2人組をつくり、片方は「小手打ち」を、もう片方は「胴打ち」を学びます。そして、ペアで教え合い、形を完成させるといふプロセスにしています。ジグソー学習をすることで生徒一人一人が能動的に活動するようになります。

二つ目はタブレットを使用した分析活動です。タブレットで自分の形を撮影し、それを「G・B・N」に基づいて分析します。分析の際には各班に「ポイントシート」を配布したり、それを拡大印刷したものを武道場に掲示したりして、分析の視点をわかりやすくしています。「G・B・N」とは「Good」「Bad」「Next」のことで、「自分の良いところ」「課題」「課題の解決策」をそれぞれ動画から

剣道

1 年 () 組 () 番 氏名 ()

めあて

知識: 竹刀や技術の名称、美しい作法の行い方について説明できるようになろう。

技能: 気・剣・体が一一致した剣道形ができるようになろう。

思考力・判断力・表現力: 自分や仲間の課題を見つけ、伝えることができるようになろう。

主体性: 安全に配慮して、伝統的な行動の仕方を守ろう。

◎ 武道にはどのような種目がありますか??

--

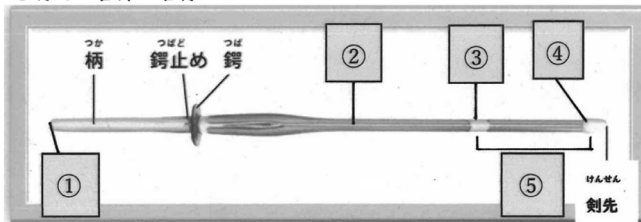
◎ 剣道とは

剣道具を着けて相対した 2 人が () を用いて攻防し合い、() ・ () ・ () などの () (一本) を競う競技

◎ 剣道の精神

() にはじまり、() に終わる

◎ 竹刀の各部の名称



- | |
|-------------|
| ① () |
| ② () |
| ③ () |
| ④ () |
| ⑤ () |

◎ 基本用語

- | | |
|--|---|
| ① ()
・ ・ 座るときは左足から、立つときは右足から行う
② ()
・ ・ 打突後に相手の反撃に備える心構え、身構えのこと | ③ ()
・ ・ 構えの足のかたちを崩さず、移動する方向に近いほうの足から動かす足さばきのこと
④ () の間合い
・ ・ 基本となる間合い |
|--|---|

◎ 自分の課題と仲間の課題 (動画をみて、気・剣・体・残心の観点から good/bad/next をみつけよう)

G B N	G B N
-----------------------------	-----------------------------



撮影の様子

タブレットで撮影した動画を分析し、技術向上に生かします

分析し、技術向上に生かします。
三つ目は形の判定試合です。単元の最後にはグループごとに形を披露し、それを他の生徒が判定するという活動を行います。剣道の試合に少しでも近いものを体験させるために、審判は三審制で行い「気」を担当する人、「剣」を担当する人、「体+残心」を担当する人とそれぞれ審判をする際の視点

4

成果と課題

を分けます。そして、最終的に多数決で決まる剣道の審判法に触れながら、お互いの形を評価し合っている、それぞれの頑張り^たを称え合うことを目的として行います。

授業後に「自己評価」「頑張ったこと」「剣道のすばらしさ」について振り返りシートの記入を行います。「声を出すことが苦手だ」など、最後は恥ずかしさが減った「など、授業前にはあまり乗り気ではなかった生徒も肯定的な振り返りを書いていくことが多く、嬉しく思います。また、「剣道のすばらしさ」については「礼法を大切にしていること」「相手を尊重して試合をすること」など武道の本質に気づく生徒も多くなります。
今後の課題としては、剣道の「打った」「打たれた」の面白さを感じさせるための授業づくりです。場所もモノも限られてはいますが、まずは簡易竹刀の導入や面紐^{おもて}などにマジックテープを使用するなど、モノの工夫から始めようと思います。

5

最後にこれから
剣道授業について

これからさらに武道の授業を展覧させるためには、研修会を増や

すなどとして、経験者以外の教員でも自信をもって行えるような取り組みが不可欠だと思います。実際に私の授業を見た他の先生方から「今まで何をしたらいいのかわからなかったけれど、この授業の流れだったらやってみよう」と、嬉しいお言葉をいただきました。また、昨年度に参加させていただきました「全国剣道指導者研修会」では、生徒の意欲をかきたてるウォーミングアップに始まり、安全指導やリズム剣道など学校現場で即実践できる学びばかりでした。このように、武道経験がない教員への研修や資料を充実させることで、もっともつと武道が普及していくと考えます。

また、私自身も武道の授業を通して、単なる技術向上だけではなく、古来、大切にされてきた日本人の美徳が継承できるように、そして、授業を通して、一人でも多くの生徒が「剣道が楽しい」とポジティブに受け止めてくれるように、常にアップデートし続けていきたいと思っています。